

学科名	声優・演劇科
コース名	声優コース
授業科目	アフレコⅠ
必選	選
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実技
時間数	105
単位数	3
担当教員	富永みいな、茶風林、折笠愛
実務経験	有
実務経験職種	声優
授業概要	アフレコに興味を持たせる。その上で自分が表現したものを録音して聞かせることによってそれぞれの意図と結果のギャップを埋めていき充分な表現ができるように進めていく。
到達目標	発声・滑舌の訓練の継続、また作品の理解と自分の役どころを理解し豊かな表現ができることを目標としている。
授業方法	実際に使用する機材の使い方とマイクワーク、テキスト（台本）で使われる用語、台本の読み方（芝居の組み立て方）、マイク前での発声、距離感を覚える。マイクの前でも自由に豊かな演技ができるよう指導する。
成績評価方法	成果発表 20% 表現力、個性、台本の理解度を確認する 平常点 80% 授業における積極性、コミュニケーション能力、授業態度によって評価する
履修上の注意	自分のことだけに目を向けるのではなく、問題点や課題は仲間と常にチェックしあえるようなクラスの雰囲気作りが大事である。
教科書・教材	必要に応じ、授業内で資料・アフレコ台本を配布する。

授業計画	
第1回	アフレコに興味を持つ（1）発声・滑舌の練習を工夫することで表現力向上を目指す
第2回	アフレコに興味を持つ（2）朗読の練習により相手に向かって語ることに意識させる
第3回	アフレコに興味を持つ（3）挨拶、スタジオ内でのマナー、マイク、レシーバー等機材の使い方を覚える
第4回	アフレコに興味を持つ（4）画面を見ながら演技することを体験し、その面白さを知る
第5回	アフレコに興味を持つ（5）マイク前で喋ってみる
第6回	芝居の流れを理解する（1）台本で使われる用語を覚える
第7回	芝居の流れを理解する（2）自分の演技プランとその結果を考える
第8回	芝居の流れを理解する（3）アフレコで使われる用語を覚える
第9回	芝居の流れを理解する（4）アフレコのテンションを考える
第10回	芝居の流れを理解する（5）台本を読んで芝居の流れを理解する
第11回	マイクの前で台詞が言える（1）お互いの演技を見て学習する
第12回	マイクの前で台詞が言える（2）マイクの前で集中して演技出来るようになる
第13回	マイクの前で台詞が言える（3）共演者とのマイクワークを考える
第14回	マイクの前で台詞が言える（4）発声、アクセント、鼻濁音、訛り等お互いにチェックしあう
第15回	マイクの前で台詞が言える（5）録音した自分の台詞を聞き、それらを客観的に分析してみる